

第2部

会員の授業実践「A中学校B教諭」教員7年目、本校では1年目、学び合いの授業。2年生の国語の授業。文学の授業。

授業の実践を、ビデオを交えて説明。

B教諭

「今回の授業であつかった授業は、中2盆土産」

親に思いをうまく伝えられず、もどかしい思いをする少年の気持ちをおう。

本時は、5/5の授業。

今回の物語のキーワードえんぴふらい。

◆授業視聴◆

野口先生のご指導へ。

B先生、ご苦労様でした。

国語の授業でどういう力がつけられたらいいかって学び合えたらいいですね。

学び合いってのは、西川純さん？佐藤学さん？「はい」

では今、やっていたのは学びの共同体の授業？

「いえ違います。」

授業ってのは、何のためにやるか。

これは、学力を形成するってこと。

これは国語だから、国語の学力の形成をする。

B先生の授業で、この学力の形成は、どこにあったかな？

次、形成の仕方が効率であったか。授業の見方はこの2つ。

学力は形成したか

学力の形成の仕方。意味のないためらいはなかったか。

会員のみなさんは、どういう学力が形成されたとみましたか？

同じことをB先生にも聞いてみたい。

50分までであるからじっくり考えていきましょう。

国語の学力ってなにをつけたかわかんない。

わかんないことでどれだけ助かっているかわかんない。(笑)

じゃあ、授業者に聞いてみましょう。

授業者「本文を何回も読んだことで読み取る力。読解力ですかね。」

例えば、こういう読み取る力がついた。それが、叶えられたかどうか。

授業者「本文中の言葉を根拠として読み取ることができたと思います。」

「よくわかったと思う人○よくわからないというひと×」

「○×まだつけないひと？まだいる？さっさとつける」

じゃあ聞こう。○の人？×の人？

B先生、よく見といてよ。

「よくわかんないよ。」というのがみんなの評価。

学力を形成するって言うのがよくわかっていないとだめ。

学力を形成するっていうのは、4つくらいしかない

1つ目は、訂正・修正

これがあればあるほど、子どもは学んでいく。

班活動での修正はあったが、それは部分的なもの。

全体では、訂正修正は、0。

2つ目は、入手・獲得

知らなかったけれども、新たに手に入れたこと。

ここの時間ではなかった。

3つ目は、浅かったけど深めたという、深化統合

構造的に全体的にわからせた。あったかな？

深化統合1箇所あった。

4つ目は、上達・進歩

ぎすぎすしていたところが上手になった。

もう一回読んでごらんって言って、読んだら上手にできた。

目で見てわかる、向上の変容。活動させれば力がつくはダメ。

教育はそのままにしておかないこと。

学力を向上させるのが授業

登場人物をあげなさい。こういう発問は×
登場人物をすべてあげなさい。

挙手指名方式・・・手を挙げた子を指す
これもダメ

「登場人物をすべてノートに書け。」

そうすると、子どもは、手を下ろして書き始める。

「書き終わったら、その人数をノートに書け」

1と書いた人、手をあげて。2と書いた人手をあげて・・・。

こうしていくとばらつきが出る。

4以外は、全部誤答。4人あげられて正解。

4って書かなかった人は間違いなんだ。

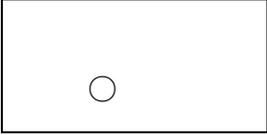
正答と誤答を命中しなければ、学力はつけられない

学力をつけるのに一番大事なのは否定です。

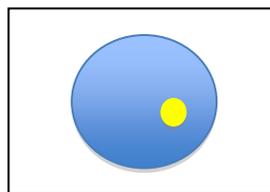
3たす2は5だけが正解。

否定をするから、子どもは、はっとして正解をさがす。

国語は、学力をつけるのに一番大事なのは否定です。

正解  は

これが狭いほどいい。



大きな、○ではダメ。

そこで、B先生。

えんぴつフライといった少年の気持ちの正解を述べよ。

授業者「もう一度かえってきてほしい」

彼女が言った、答えが正しいと思う人は、○

違うんじゃないのという人は×
はい～まだつけてない人？つけた？

曲げると挙げるは違うんだよ。

教える先生がよくわかってない

これは発問とは言わない。質問という。質問は子どもに聞いている。
発問というのは正解があって。その正解には、なかなか至らない難しさがある。
発問は、えんぴふらいと言った、少年の気持ちを考えることができる。
考えたことが、質が高いか低いかは問題ではない。

考えられればいい。

えんぴふらいといった少年の気持ちを正しく読み取る。

すごい、えんぴふらいがうまかった。

うっかりえんぴふらいと言っちゃったのは、それほどえんぴふらいがうまかった
よつということ。もっと端的に、もっと簡潔に。

さようならと言うつもりで、うっかりえんぴふらいとってしまった。

それほどすげーうまかった。

立ち止まってにがわらいした。

うまかったんだなあ。

えんぴふらいがそれほどすばらしかった。解をできるだけ限定して、もっていない
いと裁けない。

B先生の授業は、一言で言うと活動主義。

学び合い、

佐藤学さんは、学びの共同体と言っている。

そして、その正反対にいるのは、わたしです。

そこから、面白いから、西川純さんと私を対決させようということになって、
面白いからぜひやろう。と言ったんだが。

私は、野口流の授業を自分でやってみせた。けれども、あちらは、私（西川純）
が指導している授業のビデオをぜひみていただく。とあって、実際に自分で授
業をしなかった。わたしは、いつでもやってみせる。

みなさんもえらく「うんうん」とみているけど、間違いを見抜いていかないといけないんだよ。

子供と日々、授業やってるんだから。

授業のビデオの子どもたちは、みんな声が小さい。

ああいうのは、認めちゃいけない。

全体を見渡してもっと声を大きくしていかなければならない。

ほとんどがやらせっぱなし。

もっとよくし続けるんだよ。この原点がよくわかってないんだよ。

そして、あなたは、教授話法としては早すぎる。早弁です。

旦那さんと話す時はいいよ。

あなたは、私的語法を授業でも延長して使っている。

教師は、もっとゆっくり、言葉を選んで

少ない言葉で「ぴしゃっ」といわなきゃいけない。

「…思います」は、×。

「…始めます」といわなきゃだめ。

私も、「思います」という言葉をできるだけ使わないように話している。

「～の方」も×。

意味のない間の抜けた使い方をしない。

自分の言葉を使い分けなきゃいけない。

問いを出して手を挙げさせることをやめさせる。

常に、ひとりのこらず全員参加。今の発言によかった人は○、

聞いてなかった人は書けないんだ。発言者の発言内容について○か×か

主体的に、隙のない授業をやっていく必要がある。

ご苦労さんでした！

授業者「教師としての道をしっかり歩んでいきたいとします。」